

プログラム近況報告

ルワンダ共和国 キラムルジ地域開発プログラム(RWA-187343)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

子どもたちの誕生を祝う誕生日会を開きました



支援により増築された校舎の前に集まった小学校の生徒とADPマネージャー

チャイルド・スポンサーシップでは、地域に根差した開発援助を行うために、約15年という長期間に渡りプログラム(事業)を実施しています。5年ごとに期間を区切り、当期の活動の評価と振り返り、また次期5年間の活動計画を立てます。キラムルジ地域開発プログラム(以下、ADP)では、2013年度に最初の5年間(第1期)を終え、第2期に向けた活動計画を策定しました。地域住民を巻き込み、優先的に取り組むべき課題や、対応策について話し合いました。

また、地域で誕生日会を開きました。地域では、経済的に余裕のない家庭が多く、子どもの誕生日を祝う習慣がありません。そのため、誕生日会を通して、誕生を祝ってもらうことの喜びを子どもたちが知るとともに、「子どもの権利」(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利など)を認識することができました。また、体に障がいを持つ子どもたちに車イスを支援したことで、彼らの活動の場が広がり、通学も可能になりました。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ

アフリカの中央に位置し、美しい丘の連なるルワンダより、ごあいさつ申し上げます。キラムルジ地域の人々と子どもたちへの皆さまからのご支援により、多くの変化が生まれていますことに心より感謝申し上げます。活動を行っていく中で、様々な困難もありますが、地域の最も厳しい環境にある子どもたちが健やかに成長できることを目指し、地元行政や住民と協力し、活動を進めています。感謝とともに、引き続いてのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



ジーンボスコ ブズムレミ (キラムルジADPマネージャー)

HIV/エイズ対策・保健衛生プロジェクト

地域保健従事者と協力し、栄養不良と認められた子どもたち132人に対し、栄養状態改善のための働きかけを行いました。地域の母親は、地域内で簡単に入手できる食物と家庭菜園で採れた野菜を活用し、子どもが必要とする栄養素や母乳育児法、バランスのとれた食事の調理法を学びました。家庭菜園では、雨のほとんど降らない乾期でも、ワールド・ビジョンの支援で設置された貯水タンクで水やりができるようにな

りました。また簡易浄水剤[※]による浄水や水を必ず沸騰させてから使用することによって、地域内で寄生虫や下痢の予防も進んでいます。HIVの感染予防と、HIV/エイズとともに生きる人々に対する偏見・差別への取り組みも推進しています。世界エイズデー（毎年12月1日）での啓発による認知度向上の結果、診療所でのHIV検査およびカウンセリングに自発的に参加した人々の数が増えました。



栄養状態改善プログラムで栄養バランスのとれた食事をする子どもたち



簡易浄水剤により汚水を浄化している様子

※簡易浄水剤：汚水を浄化するための簡易浄水剤。少量の粉末を汚水に溶かしてかき混ぜると、汚れが一つに固まり沈殿し、それを濾過することできれいな水が得られるというもの。ワールド・ビジョンはキラムルジ地域内でこの製品を使って、人々により安全な水を届ける活動をしています。

平和再構築プロジェクト

1994年4月から6月にかけて、ルワンダでは多数派のフツ族が、少数派のツチ族や穏健派のフツ族を大量虐殺するという悲劇が起きました。たった100日間という短期間に約80万人もの人々が命を落としたと言われてしています。悲劇から20年が経ちましたが、虐殺を生き延びた人々は心に大きな傷を抱えながら日々の生活を送っています。さらに、かつて自分の家族や親戚の命を奪った隣人が、服役を終えて同じ地域内に戻ってきています。そのような状況の中プロジェクトでは、虐殺を生き残った人々が若者たちの収入向上グループを結成し、ともに一つの仕事をする事で心を癒し、自らの生活の糧を得ていく働きを進めています。今年度は彼らが養鶏をできるよう、1,500

匹の雌鶏を支援しました。組合や若者クラブのメンバーには、チャイルドの成長を定期的に確認する地域ボランティアの役割も含まれています。養鶏により、卵を消費する子どもたちや若者の栄養状態が改善され、卵を売ることによって現金収入を得ることもできるようになりました。養鶏のほかにも、ルワンダで伝統的に作られているかご作り（サイザル麻、バナナの葉、葦等を編み込んだもの）を実施するメンバーもいます。



1,500羽の雌鶏が支援され、若者たちの収入向上グループで飼育しています



かご作りを行う女性たち

食糧増産プロジェクト

適切な技術で地域の農業生産性を高めています

地域の農業組合に温室、農機具、堆肥、品質の良い種子の支援と、それらを使った農業技術の研修が行われ、農作物の収穫が向上しています。例えば、バナナの収量は18トン/ha(2012年)から20トン/ha(2013年)、メイズ(トウモロコシ)は3トン/ha(2012年)から4トン/ha(2013年)、大豆は1.3トン/ha(2012年)から1.8トン(2013年)に増えました。ほかに家畜を持たない家庭には乳牛が提供され、牛乳が搾れるだけでなく牛糞を利用した堆肥作りにも役立っています。



市場で販売するためにキャベツを収穫する農業組合員

温室外でも様々な種類の野菜を栽培しており、現在はキャベツ、玉ねぎ、にんじん、ピーマンなどを収穫しています。温室の支援を受けた組合のメンバーの一人、ガサナさんはこれらの野菜の収穫がどのように収入を上げ、利益を得ているのかを語ってくれました。「私たち組合員は温室でのトマト栽培を学び、2013年10月から売り始め、収入を得ています。これから灌がい技術を使って、温室内だけでなく外でも栽培することを決めました。また、私たちは組合として一つ



提供された農機具はバナナやとうもろこし、家庭菜園の生産性を向上させています

の銀行口座を開設し、組合員の家族が病気や不幸のために急にお金が必要となったり、新たに小規模な事業を始めたりする際は、組合員であれば誰でも組合からお金を借りることができ、いくらかの利子を付けて返済するようにしています。野菜栽培を始めてから、私たちの家族は野菜をより多く消費できるようになり、家族の中に栄養不良を抱える者はいなくなりました。栽培をしていない近所の人たちも安値で組合から野菜を買うことができます。私たちは将来的にもっと大きな土地を買い、農業活動の規模を拡大したいと願っています。もっとお金を貯め、子どもたちの衣食住を十分満たしてあげたいです」



活動に参加して良かったことについて話し合う組合のメンバーたち

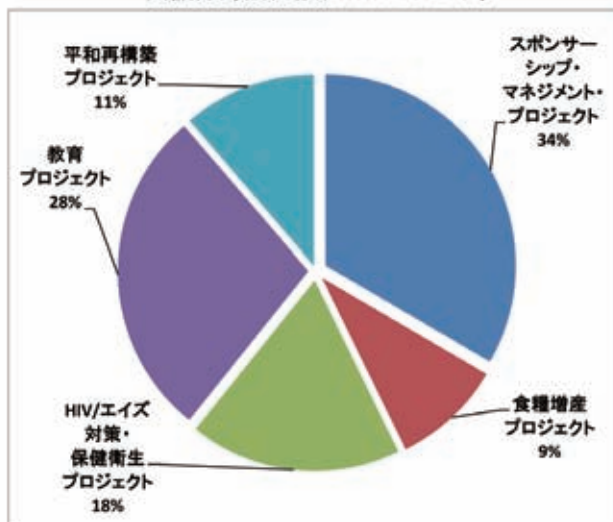
会計報告

収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

	RWA-187343 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	85,444,748
当期支援額	85,444,748
前期繰越金	-1,019,723
プログラム支援額合計	84,425,025
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	27,555,577
食糧増産プロジェクト	7,717,080
HIV/エイズ対策・保健衛生プロジェクト	14,834,522
教育プロジェクト	23,049,863
平和再構築プロジェクト	9,325,910
プログラム支出額合計	82,482,952
次期繰越額	1,942,073

支援分野別内訳(RWA-187343)



教育プロジェクト

子どもたちや親に教育の重要性を伝える研修や、教育方法に関する教師向けの研修が行われ、キラムルジ地域の小学校の子どもたちの成績が向上しています。キラムルジ地域が属するガツィボ郡の記録によると、2012年度の小学校修了時に行われる試験の合格率は62%でしたが、2013年度は74%に向上しています。ほかにも、地域内の中学校一校では、バレーボールとバスケットボール兼用の運動場が整備され、これまでは運動場まで5キロも歩いていましたが、今では自分の学校で友人と体を動かし、スポーツを楽しむことができるようになりました。また、ある小学校では、教室と校長室を建設し、教師たちが整った環境で授業を進められるようになり、教育の質が向上しています。



支援された運動場でバレーボールやバスケットボールを楽しむ生徒たち



建設された教室の前で遊ぶ生徒たち

4つの教室が増築された小学校では、1教室で学ぶ生徒の数が減り、教師たちも授業がしやすくなりました。これまで教室数が少なく、遠方の別の学校に通わざるを得なかった子どもたちも、教室が増えたことにより、歩いて通える距離のこの小学校に来るようになりました。長距離を歩いて通学しなければならなかったために学校に来なくなったり、授業を頻繁に欠席する生徒たちがいましたが、その数も減りました。また、通学時間が短くなったことで、家で授業の復習や宿題をしたり、両親の手伝いをする時間も増えました。

地域内のある小学校では、40人あたり1トイレ（便座）という教育省の推奨基準があるにもかかわらず、400人の生徒に対し3つのトイレ（便座）しかなかったため、ワールド・ビジョンでは13のトイレ（便座）を追加設置しました。同校の教師で生徒の健康管理を担当するニランサンガさんは、こう話します。「私たちは長い間トイレ不足に悩まされてきました。男子も女子もこのトイレを一緒に使用しており、その状況は健全であるとは言えませんでした。また、生徒たちはトイレを使用するために、長い列を作って待たなければならず、授業に遅れる生徒もいました。新しいトイレは、障がいをもった子どもにも使いやすいように建設されており助かっています」

小学校3年生のニョムガボさんはこう言います。「古いトイレは汚物が詰まり過ぎていたため、嫌な臭いがしていましたし、トイレを使った後に手を洗うこともできませんでした。でも、今ではこうした問題はなくなりました」



学校に新設されたトイレ



新たに建設したトイレを利用し、手を洗う生徒たち

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

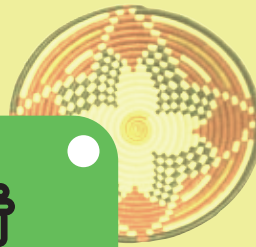
お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。



World Vision

この子を救う。未来を救う。

プログラム近況報告

ルワンダ共和国 グウィザ地域開発プログラム(RWA-190768)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

子どもたちの健康状態が改善されるための取り組みが行われました



新しい運動場でバスケットボールを楽しむ子どもたち

今年度、グウィザ地域開発プログラム(以下、ADP)では、子どもたちの栄養状態の改善のため、様々な取り組みが行われました。栄養不良の子どもを持つ家庭や、経済的に厳しい状況にある家族を中心に構成される協同組合に対し、養鶏や農業技術の指導を行い、地域全体での食料が安定的に供給できるための活動が行われました。



支援により野菜の収穫量が向上し、子どもたちの栄養状態も改善されています



支援されたビニールハウスで野菜を育てる協同組合のメンバー

そのほか、学校設備への支援として、各小学校にバスケットボールやバレーボールを行うための運動場が整備されました。子どもたちのための遊具などがほとんどないこの地域で、子どもたちが健康のためにスポーツを楽しむことができる貴重な設備として活用されています。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

グウィザ地域より、地域の人々を代表し、温かいご支援への感謝を申し上げます。皆さまからのご支援により、地域ではたくさんの変化が生まれています。活動を進める中で、難しさを感じることもありますが、地元政府や地域住民との協力関係により、一つひとつの壁を乗り越えることができています。そして何より、皆さまからの継続的なご支援により支えられています。心からの感謝とともに、子どもたちが健やかに成長できる地域づくりのため、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ジョナス・ルガンズ (グウィザADPマネージャー)



食糧増産プロジェクト

今年度、グウィザ地域では地域住民が運営する6つの協同組合に対し、12棟のビニールハウスが建設されたほか、2つの組合には14の養蜂設備を支援しました。また、有機肥料を使うなど、新たな農業技術のトレーニングを行ったほか、養鶏のために必要な鶏の支援も行われました。その結果、地域全体での生産性が向上し、各家族は生産物を売り、子どもたちの学費や家族の医療費を支払うことができるようになりました。

採卵鶏の供給を受けた協同組合では、より栄養のある食事を子どもたちに提供できるようになりました



整備された養蜂設備



収穫間近なトウモロコシの農場

保健衛生プロジェクト

国や地域の行政機関との協力のもと、14キロメートルの上水用パイプラインが建設され、1,500世帯が安全な水を利用できるようになりました。修繕や管理のための費用として、20リットルあたり1セントの使用量を地域住民が支払う仕組みです。さらに300世帯が利用する3カ所の井戸の修理が行われたほか、294世帯に飲料水用のフィルターが支援され、遠くまで水を汲みに出かけなくてもよくなりました。住人のファウスタさんは、「子どもたちは、かなりの距離を歩いて水汲みをしていたため、よく学校に遅れてしまうことがありました。でも、今では家のすぐそばに水タンクが設置され、遅刻する心配がなくなりました。ご支援にとっても感謝しています」と話してくれました。

これまで湖まで長距離を歩き、水を汲んでいました



また、ヘルスワーカーに対し、栄養や妊産婦に関するトレーニングを行い、各家庭や保健所を巡回して地域の子どもの健康状態改善に向けた取り組みを行いました。2人の子どもの母親のローズさんは、「以前は保健所まで子どもたちを連れて7キロも歩いて行かなくてはなりませんでしたが。今では、ヘルスワーカーの方が訪問してくれるのでとても助かっています」と話してくれました。



ローズさんの子どもの健康状態を確認するヘルスワーカー

建設されたパイプラインを通じて安全な水が給水所に流れてきます。住民は使用料を払い、水を汲みます

平和再構築プロジェクト

1994年に100日間という短期間に約80万人もの人びとが亡くなったジェノサイド(大量虐殺)の被害者および加害者を対象に活動が行われました。これまで、心のケアや住民同士が理解し合い助け合うことの大切さを学ぶ活動が行われてきましたが、学びで訓練を受けた20人の地域住民を中心としたグループが立ち上がり、今では、地域で問題が起こった時に住民が主体となって対処できるようになっています。例えば、毎年4月は、ジェノサイドの犠牲者を悼む追悼式典が開かれます。この時期、当時の悲惨な出来事が思い出され、地域住民の間でも様々な問題が起こりやすくなります。そのようなとき、心のケアや問題の対処を、グループのメンバーが行えるようになりました。グループのメンバーの一人であるジャンさんは、「将来地域を担っていく者として、地域や私たちの国の役に立てるのが嬉しいです」と活動に参加した感想を話してくれました。



和解の集いに参加したジェノサイドの生存者と加害者たちは、今では「赦し」を分かち合うことでより良い生活を享受しています



これまで家がなかった父親と息子にトタン屋根の家を支援しました。真ん中に立っているのは現地スタッフです



トタン板で屋根を建築中の住宅

また、ジェノサイドの生存者たちが安心して暮らし、希望を取り戻せるように、地域住民との協力のもと住宅の建設が行われました。ルワンダ農村部では茅葺き屋根と土壁の住居が一般的でしたが、特に大量の雨が降る雨期には家の内部まで浸水してしまうため、近年では政府がすべての住居の屋根をトタン板にしようとして取り組んでいます。しかし、政府の限られた予算や行政執行能力からトタン屋根の支給を受けられていない世帯も多いため、特に貧しい家庭を優先して、トタン屋根の支援を行いました。

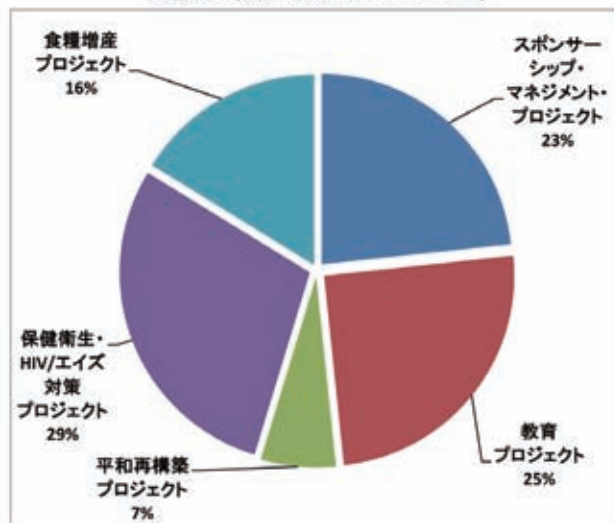
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

RWA-190768 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	61,352,274
当期支援額	61,352,274
前期繰越金	-1,374,503
プログラム支援額合計	59,977,771
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	13,967,462
教育プロジェクト	14,990,355
平和再構築プロジェクト	3,812,099
保健衛生・HIV/エイズ対策プロジェクト	17,411,155
食糧安全保障プロジェクト	9,724,480
プログラム支出額合計	59,905,551
次期繰越額	72,220

支援分野別内訳(RWA-190768)



教育プロジェクト

地方行政、地域住民、ADPがそれぞれ経済的負担を分担し合い、地域の小学校に4教室、職員室、およびトイレを建設しました。まだまだ十分とはいえませんが、教室数が増えたことで各教室をこれまでの62人から50人で利用できるようになり、子どもたちにとってより良い学習環境が整いました。また、両親を亡くした子どもたちや経済的に恵まれない家庭の若者15人に対し、職業訓練を行いました。訓練修了時には、ミシンや大工道具など必要な道具を支援しました。学んだ技術と道具を使いこなし、生計を立てられるようになることを目指しています。



支援により建設された小学校と子どもたち



小学校で学ぶ子どもたちの笑顔は輝いています



職業訓練を修了した若者たち

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。6月16日には「アフリカの子どもの日」を支援地域内の子どもたちとともに祝いました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。